

# 東照宮へ、ロマンスク日光街道⑩2日目 宇都宮宿～徳次郎宿

開催日：2024年1月22日（月） 天候：晴のち曇 やや健 歩数：28500歩 距離：18km

集合：ホテルサンシャイン宇都宮 8時30分

コース：ホテルサンシャイン宇都宮→JR宇都宮駅→二荒山神社前→日光街道と奥州街道の追分→本郷通り→宇都宮宿追分→一里塚跡→亀の甲坂→延命院→桂林寺→日光街道清住通り→高尾神社→桜並木→上戸祭→一里塚～お食事「とり茂」→光明寺→桜並木遊歩道→高谷林→一里塚→第6号接合井→富屋地区市民センター→明王院跡→下徳次郎宿仮本陣跡→徳次郎城跡→下町薬師堂・石仏→中徳次郎宿跡→見世蔵→智賀都神社→宝木用水→上徳次郎バス停（バス）→宇都宮駅

参加者：熊坂L 奥村SL 勅使河原 奈良 清水 市村 小田 高橋友 山口 田村 10人

宇都宮宿は、日光街道および奥州街道の17番目の宿場で宇都宮城の城下町にありました。本陣は日光街道と奥州街道の追分に当たる伝馬町および池上町に1軒ずつ、脇本陣は伝馬町に1軒ありました。日光街道で最も賑わった宿場町であったことは、前日歩いた城下町の大きさからも実感できました。

この日は追分から日光街道を北進、宇都宮宿一里塚跡、延命院、桂林寺を巡り、ひたすら北へ。高尾神社を過ぎると日光街道桜と杉の並木が始まり上戸祭一里塚へ。午後は光明寺を参拝、高谷林一里塚あたりで古木となった桜の伐採が行われていました。下徳次郎本陣跡、杉林の中のうす暗い徳次郎城跡を巡り薬師堂へ。ここで地元の男性が「石仏は大谷石ではなく近くの山から切り出した徳次郎石」と飛び入り解説。街道歩きならではの地元を愛する人とのふれあいがありました。中徳次郎宿跡、智賀都神社、宝木用水を巡り上徳次郎バス停に到着。歩いて来た道をバスで戻り16時55分、宇都宮駅へ着きました。



上戸祭一里塚

## ホテルサンシャイン宇都宮 8時40分～JR宇都宮駅～二荒山神社前

朝食はホテル1階のレストラン「ライオンズヘッド」。6時半から朝食タイムということで7時半に下りましたが、クラブの人は誰もいなくてみなさん食事を済ませていたようです。洒落た店内の棚には洋酒のボトルがズラリ。バイキング方式で料理も豊富、時計回りに、野菜サラダにウインナーとコーン、がんも煮、焼き鯖、スクランブルエッグ、ベーコン、白菜お新香、ミニチキンカレー、コーヒー、ご飯と豚汁。ゆったりと食事を済ませ、店員さんと「御馳走さま、これから日光街道歩きです」「気をつけて行ってらっしゃい」と会話。夜、お酒を飲んでみたい「パブ」でした。8時40分、ホテルサンシャイン宇都宮をスタート。JR宇都宮駅東口に昨年導入された宇都宮ライトレールの車両が停車していました。駅西口橋上広場へ、青空のもとストレッチ。四方にホテルが林立、新幹線も通る交通の要所でいまやここあたりが現代版宇都宮宿のようです。熊坂リーダーからコース説明を受けて大通りを西へ。「宮の橋」「大工町」と城下町を思わせる名の交差点やバス停を通り、宇都宮二荒山神社前へ到着。ここまでは前日歩いて来た道です。



## 県庁前バス停～伝馬町バス停～日光街道と奥州街道の追分～本郷通り

二荒山神社前に避難場所案内図があり、市内の位置関係がよくわかりました。地図の上が南で前日歩いた宇都宮城址があります。左が東方面でJR宇都宮駅、右が西方面で東武宇都宮駅。この間に商店街や飲食店、オフィスビルが広がっています。県庁前バス停から伝馬町バス停前へ、伝馬町には上野新右衛門の宇都宮宿本陣がありました。その先に「日光街道と奥州街道の追分」の標板がありました。前日のコースで城下町の西側を歩いて来て、東に折れるとここで奥州街道はそのまま東へ、日光街道は本郷通りに入り北上します。少し進んだところに、大谷石の塀と格子窓で黒ずくめの上野商会の建物がありました。



## 宇都宮宿追分一里塚跡～亀の甲坂～延命院～蒲生君平菩提寺の桂林寺

少し汗ばんできて上着を脱ぎました。本郷町通りを少し進んだところに宇都宮宿追分一里塚跡があり、説明板に「小幡清住地区のまちづくりの一環として、日光道中追分一里塚二十七里の標識を設置しました。平成26年11月吉日、小幡清住まちづくり委員会」と書かれていました。道路が六角形のすべり止めになっている亀の甲坂を下って蒲生君平が修学した延命院へ、快慶の流れを汲む作風で鎌倉時代の作と考えられる菩薩立像が祀られている地蔵堂で参拝。近くの蒲生君平菩提寺の桂林寺へ、山門前に「愚痴はたまに、感謝はつねに」と説法が書かれていて「逆になっているな」と反省。墓地の一角に蒲生君平の墓がありました。



## 日光街道清住通り～上戸祭町交差点～高尾（高麗）神社 狛犬 高地蔵尊

10時に桂林寺を出て日光街道の清住通りを北に進みます。競輪場通りと交差するところまでが清住通り名だったようです。黙々と歩いて10時40分、上戸祭町交差点に出ました。交差点を渡りドラッグストアへ、飲み物購入などして小休憩。ウォーキングを再開して5分ほどで高尾神社へ。標示板には「高麗神社」表示。雨かんむりの下に口が三つと龍」、しばし漢字談議。パソコンでは「おかみ」で変換。境内の隅にいろいろな表情をしている狛犬が並んでいました。高地蔵尊が祀られていて、その後ろに直径約12m、高さ3mの丸い塚が見えます。塚の上に宝篋（ほうきょう）印塔が立っていましたが写真を撮りそこない残念。



## 桜並木～江戸から28里の上戸祭一里塚～11時35分「とり茂」

高尾神社を出て少し進むと「世界遺産日光の社寺まで34km」の標識がありました。約16kmにもなる桜並木が出てきて途中杉並木も混じっています。遊歩道は車道より高くなっています。江戸から28里の上戸祭一里塚に到着、記念写真を撮りました。並木道をさらに北上、ピッチが早くなったように思えます。「日光へ21km」の標識。少し前に「日光の社寺まで34km」との表示でしたから、日光市に入ってから社寺まではかなりの距離があるようです。11時35分、昼食場所の「とり茂」に到着。4人テーブル席3席を確保できました。しばらくするとテーブル席、座敷席ともに満席になり入店待ちの人が、リーダーが「下見のとき満席になったのでピッチを上げてきた」と言われて納得。私はチキンカツ定食のアツアツを美味しくいただき、他の人は焼肉定食、カツ重そばセット、カキヒレカツそばセット、どれもボリュームたっぷりでした。



## 関東八十八カ所霊場光明寺～桜並木遊歩道～桜伐採工事～高谷林一里塚

12時40分、午後のスタートです。10分ほどで、関東八十八カ所霊場の光明寺へ、鐘楼門の下を通るとセンサーが働いてお経が流れます。静御前の守り仏（薬師如来）を安置することから「桜本薬師」の呼び名もあります。境内に静桜が植えられています。光明寺を出て少し歩くと民家の庭に淡い色の梅の花が咲いていました。形よく高谷林（こうやりん）一里塚が残っている進行方向右側の桜並木遊歩道をひたすら北進、右前方宇都宮動物園の方向に観覧車が見えてきました。少し進んだところで桜伐採のため遊歩道が通行止め、やむなく道路を渡り左遊歩道へ、重機で枝を落としていました。私だけ車道を渡り一里塚の写真を撮影。



## 第6号接合井～富屋地区市民センター～明王院跡～下徳次郎宿仮本陣跡

道の反対側からリーダーが写真を撮ってくれました。私は右側遊歩道を歩き、左側遊歩道を歩くみなさんを撮影。塚の上に赤煉瓦と大谷石を組み合わせた城郭風の建築物ができました。説明板に「今市浄水場で浄水した水を距離約26km、標高差240mある戸祭配水場まで送る際、送水管にかかる水圧を弱めるために建設された第6号接合井」と書かれていました。下徳次郎（しもとくじら）バス停前を通り、富屋地区市民センターに入りトイレ休憩。江戸時代末期に修験者外鯨要人（とくじらかなんど）が開設した私塾明王院跡、上・中徳次郎宿とともに江戸日本橋から18番目の宿として栄えた下徳次郎宿仮本陣跡を訪れました。



## 新田徳次郎正言居城の徳次郎城跡～下町薬師堂 五智如来石塔や石仏

仮本陣跡の少し先を右に曲がって、宇都宮国綱が北の防衛のために築城して家臣の新田徳次郎正言が居城にした徳次郎（とくじら）城跡へ。うっそうとした杉林の中を進んで行くと「二の丸」表示、「内堀」表示がありました。本丸跡は分からず、「内堀から上った高台に本丸があったのだろう」ということで城跡を出ました。街道を横切り、江戸時代中期ごろに建てられた下町薬師堂へ。堂の周りには、五智如来石塔や石仏、石塔、墓石類が建っています。ここで地元の年配男性が現れて「石仏などに使われている石は大谷石ではなく、西の方に見える山から切り出してきた徳次郎石です。有志で保存に努めている」と説明してくれました。



## 中徳次郎宿跡～見世蔵～15時20分 智賀都神社 樹齢700年の大樺

時刻は15時を過ぎ、少し風が冷たくなってきました。薬師堂を出て街道を北に進みます。上・下徳次郎宿とともに江戸日本橋から18番目の宿として栄えた中徳次郎宿跡、小日野屋（高橋家）が所有する外壁に徳次郎石が用いられている見世蔵を訪れました。15時20分、徳次郎六郷の鎮守様の智賀都神社に到着。日光二荒山神社の御神体を千勝森に勧請したのが始まりで、森の名前が社号の由来です。毎年7月31日、8月1日に宵祭、例大祭が行われます（現在は3年に一度）。鳥居をくぐると左右に推定樹齢700年、樹高40mの大樺2本が立っています。参道を進み、本殿で参拝をしました。



## 宝木用水～上徳次郎バス停 歩数2万8500歩 距離18km～宇都宮駅

智賀都神社を出て東側へ、田園地帯に出て前方には山並みが見えてきました。江戸時代後期、二宮尊徳が、水不足で苦しんでいた徳次郎や高台の宝木地区のために田川の水を堰き止めて宝木用水を造りました。みなさんが捜しているのがその宝木用水、木々に覆われていて確認できません。少し上流に行き、勢いよく流れていく用水路を見ることができました。ここよりさらに上流に二宮堰と親水公園があるようです。時刻は15時45分、日光街道へ戻ります。少し歩いたところの空き地でクールダウン、その先の上徳次郎バス停へ16時少し過ぎに到着。歩数2万8500歩、距離18kmでした。16時10分発のバスが、ほぼ定刻に到着。私たちの他に乗客は3人、バスは夕闇迫る日光街道を宇都宮駅へ向けてひた走り、昼過ぎに見た桜の伐採場所前も通過、桜は根本近くから伐採されていました。バスは宇都宮市街地に入ると乗客が多くなり道も混雑、16時55分に宇都宮駅に到着。天候に恵まれた「日光街道⑩2日目」でした。



歩数	平日	土曜	日祝
5			
6	12	32	47
7	18	30	31
8	08	30	45
9	22	11	33
10	03	21	08
11	09	42	27
12	20	43	41
13	03	41	41
14	23	43	08
15	09	23	37
16	10	45	41
17	02	30	03
18	08	43	23
19	43	41	41
20			41
21			33
22			03
23			41
24			48
25			33
26			03
27			41
28			48



(いちむら記)